



ウポポイ  
民族共生象徴空間

▲「ウポポイ」全景

アイヌ文化の復興・発展のための拠点、ナショナルセンターとして7月12日一般公開された白老町の民族共生象徴空間「ウポポイ」。ポロト湖畔10ヘクタールの広大な敷地に、国立アイヌ民族博物館と国立民族共生公園を新設。豊かな自然環境の中で、じっくりとアイヌ文化を堪能できる趣向は、国立博物館としてはこれまでにない斬新なテーマパークともいえる構図も併せ持つ。

全国的な新型コロナウイルスの感染拡大により、一般公開が遅れ、オープン後も変則的な受け入れとなっている。一方で、観光振興の拠点となる白老町も、JR白老駅と周辺の整備と、「白老駅観光インフォメーションセ

ンター」の開設、ウポポイと町内の商店街を結ぶ循環バスの運行開始など、観光客の受け入れに力を入れている。一般開放以前に行われた関係者向け内覧では、北海道アイヌ協会関係者も視察し、今後の運営に関する助言をするなど、政府の「アイヌ政策のあり方に関する有識者懇談会」での報告書以来、11年で完成した「ウポポイ」への思いを熱く抱いている。

公益社団法人北海道アイヌ協会副理事長（内覧当時）として活動してきた阿部一司氏も、慰霊施設の管理運営を行っていく立場から、「ウポポイ」の将来像も含めてざっくばらんに胸の内を語っていただいた。

特集

## 開業した民族共生象徴空間「ウポポイ」

# 発信する斬新なテーマパーク アイヌ民族の文化を

公益社団法人  
北海道アイヌ協会  
前副理事長 阿部一司氏に  
聞く



ノンフィクション作家  
川嶋康男

### アイヌ民族の 屈辱の歴史を

——アイヌ協会にとっても待望久しい「ウポポイ」の誕生となりましたが、一般開放される以前の内覧会でご覧になられた全体像の感想からお伺いします。

阿部 待望久しい施設でした。ただ、歴史観で一言付け加えるなら、現代人は8月15日といえは、終戦記念日を思うでしょうが、私たちアイヌにとって明治2年8月15日は、それまでの蝦夷地が北海道と改称され内国化され

た屈辱的な日に当たります。

決定的なのが同5年9月交付の「北海道土地売買規則」と「地所規則」です。つまり、私たちアイヌの先祖からの土地がこの法律によってすべて取り上げられたのですから、この記録を忘れるわけにはいきません。

——アイヌ民族を語る上で、やはり虐げられてきた民族の赤裸々な歴史を正確に知らしめることが、なによりも基本となるよ



▲インタビュー中の阿部一司氏



続きは『月刊クオリティ』本誌を  
ご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから  
<http://qualitynet.co.jp/koudoku/>

○お電話でのお申し込みはこちらから

**TEL 011-644-0101**

(9:00 ~ 17:30 土日・祝日をのぞく)